

島根県

「恒心の道」をまっすぐ

益田東高等学校 2年 中上 千夏

「黙想。」

剣道部の練習の終わりに、部長の声が道場の中に響きます。小学生の頃から続けている剣道。毎日の練習が辛く感じることもありますが、私が剣道の練習や毎日の学校生活を頑張ることができているのには理由があります。

祖父の妹である大叔母は、書道をしていていつも優しい人でした。私が十歳の頃から書道始めるきっかけにもなった人です。私は、張り詰めた気持ちで筆を動かす時間も好きでしたが、柔らかい気持ちになれる大叔母との空間が何よりの楽しみでした。無事に高校受験も終わり、合格も決まった時には、大叔母は誰よりも喜んでくれました。「高校に入ってから剣道続けるんよ。」と言うと、「そうかあ、じゃあ高校に入っても部活動も勉強も頑張らんとね。」と心から応援してくれました。「また次に会う時は、お祝い持ってくるけん、頑張るんよ。」と、大好きな大叔母に言われて、心が躍るほど嬉しかったのを覚えています。

しかし次の日、祖母から電話がかかってきて、「落ち着いて聞くんよ。今朝ね、おばちゃんが亡くなったんよ。」と。亡くなった原因は急性心不全。今の日本人女性の平均寿命は八七歳なのに、大叔母は七三歳です。余りに急すぎて、しばらくは受け入れることができませんでした。昨日まで元気で一緒に話をしたのに。私のことを応援してくれたのに。まだ期待に答えてもいないのに。そう思うと悔しくて残念でなりませんでした。

私が毎日頑張ることができる理由。それは、大切な人との別れから。私が幼いころからとてもかわいがってもらった大切な存在で、昨日まで話していた人が、急に私の側からいなくなってしまうことが、どれほど不安で辛いことか。私はこの別れを機に、今自分の周りにいる人たちを大切にしていきたいと思えるようになったのです。大叔母との別れは、ぽっかり空いた心の穴が塞がらないままでしたが、私には大きな意味があるように思いました。

書道教室で、字が思うように書けない時、先生からこんな言葉を掛けてもらいました。「字は心で決まる。字が思い通り書けない時は、心が乱れているのだ。」と。今も続けている剣道でも、同じことが言えると思います。中学時代、剣道教室の指針に「恒心」という言葉がありました。心を動じることなく一定にして、変わらない正しい心という意味です。

高校に入学してある日、全校生徒の前で校長先生が、「私は次の日に何かあると気になって、前の夜は眠れなかったり、体調を崩したりして、ドキドキします。」とおっしゃいました。校長先生でもそうなんだと思うと、何だかちょっと安心しました。何でも挑戦される校長先生は、校内ロードレースでみんなと一緒に走ったり、全校一斉漢字テストで満点を目指したり、休み中に小学生算数ドリルから極めるなどと、その都度の目標を公表されます。私も校長先生の挑戦する精神に続きたいと思いました。何でも逃げずに挑戦することこそ、心を強くする唯一の道だと気がついたのでした。

それからはこんなことにも挑戦しています。地域の小学生や中学生と、剣道の合同交流合宿をする中で、進んで剣道の指導をする。剣道部員で地元の道路のカーブミラーをボランティアで磨いて、地域に貢献する。島根県の伝統芸能である石見神楽を、神楽部の人たちと予餞会や文化祭、地域のイベントなどで披露する。この神楽は、烏帽子をかぶり白衣・袴で、拍子をとる「かね」を演奏するのですが、ドキドキして勇気がいらいます。こうして公表するということは実行しなければなりません。今は校長先生の、生き方のヒントが多い話を聴くのも楽しみの1つとなりました。

私は体重726グラム、卵10個の重さで産まれました。超未熟児でしたが、今日まで元気に生きています。人は、どんなに慎重に生きていても、思いがけないできごとや別れは突然やってきます。どんなに頑張っても、心が折れたり諦めてしまったりすることは、いつでもどんな人でも必ずあると思います。そんな時に、自暴自棄になったり、ただ嘆き続けたりするのではなく、強い心で平然としていきたいと思うのです。将来は、大叔母から学んだ「今」を大切に生きながら、感謝することを忘れないでいようと思います。そして、人と人とのつながりを求めて、医療の道へ進みたいと思っています。挑戦し続けることを忘れないで、「恒心の道」をまっすぐ。